

3月11日に起きた東日本大震災ほどボランティアや市民活動団体が活発に活動し、その必要性和重要性が注目されたことはないと思います。
 全国社会福祉協議会の調べでは、7月10日までに岩手・宮城・福島で推計544,800人がボランティアとして活動されています。今後の復興の過程でも、ボランティアへの期待は増えています。今、私たちに何ができるか、改めて考えてみてはいかがでしょうか。

活動例

今回の東日本大震災にボランティアとして参加された皆さんの感想を聞きました。

くらしの会

多賀城市へ佃煮1,000食分持参し、炊き出し

3月11日、東北地方沿岸を襲った東日本大震災。あまりにひどい被災地の状況に心を痛め、私たちにも何かできないかと思っておりましたところ、被災地では、野菜が足りないということで、ちょうど、ふきの時期でしたので、ふきの葉を利用した佃煮と野菜の浅漬をいっしょに持っていきました。被災地の皆さんにたいへん喜んでいただき、本当に貴重な体験をさせていただきました。これからも私たちにできることを、喜んでお手伝いさせていただきたいと思えます。今は、一日も早い復興を祈っています。(代表 須藤京子さん)

国際交流協会

多賀城市での支援活動(4月16日~17日)

本市と縁のある宮城県の大崎市を目指し、金曜日の午後11時、市役所駐車場を27名のメンバーが5台の車両に乗り合わせ、出発しました。16日、現地に入ると信号機が未だ動いていない。道路脇には瓦礫の山、車の山、これで1カ月以上経っているのか。午前9時、ボランティアセンターの指示により一般家庭に。一階部分のほとんどが浸水した家屋から、家電、家具、畳などを幹線道路まで運び出す。片付けというより解体作業のようでした。二日間で10数件の家庭のお手伝いできました。ただ、あまりにも被害範囲が広すぎる。今回のこの行動が、微力ながら復興の一助となれたのであれば幸いです。(磯貝勇人さん)

8月~10月 ボランティア

うどんの会

相馬市・多賀城市にそばから枕を2,000個寄贈

私たちうどんの会は、社会教育館と黒岩公民館で、昼食にうどんを作り、一人住まいのお年寄りに食べていただく活動をしているボランティア団体です。発足以来4年半になり、利用者は延べ1万4千人となりました。今回の大震災では、被災者がいつ富岡に来て食事をしていただけるようにと50人分を調理し、冷凍にして準備していました。しかし、市での被災者受け入れはないとのことで、被災者の皆さんに役に立つことは何だろう、私たちに何ができるのかと考えた末に、枕作りに到達し、2,000個の枕を作って、被災地の皆さんに喜んでいただくことができました。会員はみな、被災者の皆さんが喜んでくださったことに涙を流して喜び合いました。ボランティアとは、してあげるものではなく自分たちが元気をいただけるものだったのです。皆さんも自分ができることを無理なくボランティアして元気をいただいでください。(代表 勅使河原澄江さん)

市職員の災害派遣

市職員として多賀城市へ派遣(4月8日~11日)

多賀城市文化センターで4日間、避難所運営業務に携わりました。当時は、避難所の統廃合もあり、避難者は、最大で600人余りを記録しました。避難者の寝泊まりスペースや配給食糧の不足など、問題は山積みでした。それらをサポートしたのが、多くのボランティアです。炊き出し、慰問、瓦礫撤去、荷物運搬手伝い、子どもの遊び相手など。ライフラインも未復旧の中、活動を自己完結できるボランティアの皆さんが数多く出入りしていました。また「誰が、どこのボランティアか」より、「今、声を掛けて誰が何をしてくれるのか」が重要でした。印象的だったのは、被災者自身がボランティアとして活動していた点です。「何かをやらすにはいられない」そんな気持ちが体を突き動かしたのかと思うと、「ボランティア」という枠を超えた、かつ、その原点を見たような思いに駆られました。(大日方貴史さん)

~いつでも だれでも みんなでできる~

ティア月間

第5回ボランティア
フェスティバル開催決定

日程 10月23日(日)

会場 生涯学習センター

問い合わせ

市ボランティアサポートセンター(☎89-2020)
市社会福祉協議会(☎70-2232)
あい愛プラザ内(日曜日はお休みです)

~ボランティアや支援活動を 考えている皆さんへ~

テレビで被災地の悲惨な状況を見て、少しでも役に立ちたいと思った人が多いと思います。でも何ができるかわからない。そんな人へのアドバイス。

被災地支援のボランティア

ボランティアの基本は自己管理。相手に負担をかけない配慮が必要です。

●被災地で何が求められているのかを知る情報収集

被災地の状況は日々変わっていきます。新聞やテレビニュースの情報だけではじゅうぶんではありません。被災地の災害ボランティアセンターへ問い合わせたり、インターネットで発信される被災地支援・災害ボランティア情報などを探すことが必要です。NPOやボランティアバスの運行による支援活動に参加するという方法もあります。

●災害救援活動を行う際の服装や持ち物

忘れてはならないのは、ボランティアは食料や衣服、就寝場所など、すべてを自前で確保するのが鉄則です。

●災害ボランティア保険に加入

ボランティア活動中のさまざまな事故によるけがや損害賠償責任を補償する保険です。安心して活動するためにも、必ず加入してください。

●現地ボランティアセンターで受付

被災地では、現地受け入れ機関の指示、指導に従って活動してください。単独行動は避けましょう。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。

●ボランティアであることが識別できる状態で活動

富岡市では、被災地でボランティア活動を行う人に防災ベストを貸与しています。

被災地に行かなくてもできるボランティア

被災地を支援する方法はいろいろあります。

●義援金での支援

義援金で援助し、被災地の活性化を図る。

●チャリティに参加

好きな物を買ったり、共感できる団体やアーティストの活動に参加して支援する。

●地元産業を応援

東北地方で生産・収穫された農産物や海産物などを購入したり、旅行に行ったりして東北地方を応援する。

●ペットの里親

飼い主といっしょに住めないペットの里親になって面倒をみる。

復興には長い時間が必要です。

息の長い支援活動が求められています。

今だからこそできる支援を
私たちの手で!

ボランティアについての知識

災害発生前に勉強しておくこともたいせつです。

●災害ボランティア養成講座を受講

毎年11月に県で行われている、災害ボランティアリーダー養成講座を受講して、普段から災害時の心構えなどを勉強しておくことも重要です。

●地域の防災訓練に参加

最近では、防災に対する意識も高まり、各地域で防災訓練などが行われています。積極的に参加し、地域で協力し合う体制を作りましょう。

●災害ボランティアぐんま 個人会員募集

災害ボランティア活動に意欲のある人を随時募集しています。関心のある人は、県庁NPOボランティア推進課(☎027-226-2290)まで。